

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の日本の社会情勢を振り返りますと、震災からの復興や原発事故対策など課題が山積しておりますが、政府の経済・金融政策により、にわかには回復へと転じてきております。しかし、その波は未だ地方にまで届いておらず、1日も早く我々の生活の中に打ち寄せ、満ち満ちてくることを強く望んでおります。

そのような中、昨年の荒尾市におきましては、荒尾競馬場跡地を候補地とした福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地誘致に名乗りをあげ、商工会議所をはじめ諸団体とも連携し誘致活動を進めて参りましたが、残念ながらその願いは叶えられませんでした。しかし、市が垣根なく、まさしく「一つ」となり誘致に取り組むことがで

きたことは、改めて本市の持つ市民力・地域力の高さを垣間見ることができました。また、商工会議所や関係団体などによる度重なる要望活動によって整備に向けて動き出した「有明海沿岸道路（Ⅱ期）」についても同様に今後繋がる「人と人の力」が光った手応えのある嬉しい出来事でした。

荒尾は「世界に誇るべき宝の山」。宝には世界遺産への政府推薦が決まり、ことし夏過ぎのユネスコの現地調査を経て平成27年度の本登録を目指す「万田坑」やラムサール条約湿地登録から1年が過ぎ、国においてビクターセンター建設の検討がなされている「荒尾干潟」、孫文との絆が礎となり中国をはじめアジア諸国との友好交流の芽になりつつある20周年を迎えた「宮崎兄弟の生家」などが名を連ねます。そして、その

裏にはそれぞれに宝を支える人の力がありました。

宝を一過性のものではなく常に生かし、輝かせ続けるためには、一人一人が行動を起こし継続することが大切です。これから皆さまと共に「協働のまちづくり」を中心に据え、幸せや生きがい、活力を実感できる「まち」になるよう全力で取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本年も皆さまにとりまして、素晴らしい年でありますよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

荒尾市長 前畑淳治

平成26年 迎春

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、輝かしい新年をお迎えることと心からお慶び申し上げます。私も第33代の市議会議長として新しい年を迎え、荒尾市発展への思いを新たにしたいところです。

さて、昨年は新たな政権の施策が動き出し、異常な円高への歯止めがかかったことで輸出関連企業の景気が上向き、株価の上昇につながりました。しかし、今までのような国内中心の産業構造では、中国・韓国中心のアジア新興国との競争に勝てず、生産拠点を海外に求める動きがより一層活発になっております。日本が今後も発展していくためには、そうした変化に対応する新たな展開が求められています。

また、荒尾市においては、競馬場跡地の有効活用・国保会計の収支の悪化などの課題もありますが、ラムサール条約湿地に登

録された荒尾干潟へのビクターセンター建設や有明海沿岸道路の三池港ICから長洲港までが計画段階評価を進めるための調査が開始されるなど、将来のまちづくりのための明るい話題もあります。

私たち市議会は、昨年1月に議会活動の最高規範として「荒尾市議会基本条例」を全会一致で可決し4月1日から施行しました。条例の制定まで5年以上の期間をかけて議会改革を協議・検討してまいりました。

その間、行政と共に議員報酬の削減や費用弁償の支給停止を行い、議会活動の周知を図るために議会だよりの発行を始めました。また、それまで議員有志での取り組みだった活動から、平成23年5月に議会改革推進特別委員会を発足させ、さらに協議を重ねてまいりました。そして昨年5月の臨

時議会において、次の一般選挙から議員定数を現在の22人から18人に減らす議案を議員自ら提出し、可決したところです。

「定数を減らせば、市民の声が議会に届きにくくなる」といった意見もありますが、議会報告会や議会だよりを充実させ、より市民に開かれた議会とするために、今後とも議会の活性化に努めてまいります。

本年も市民の皆さまが健康で安心して暮らし続けることができるまちづくりにまい進して参りますので、議会活動に対してご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

荒尾市議会議長 迎五男

